



OWLS III 参加報告

大出 孝博

レーザーテック(株) 〒223 横浜市港北区綱島東 4-10-4

去る4月10日から4月14日、早稲田大学国際会議場にて OWLS III (The Third International Conference on Optics Within Life Science) が開催された。OWLS はライフサイエンスにおける光応用といった極めて広範囲のテーマを扱う学会であり、第15回 ICO 会議(ドイツ, 1990)の際にそのサテライトミーティングとして発足した。OWLS はその後も ICO 会議の開催時期に歩調を合わせ、今回で三度目の会議開催の運びとなった。今回の会議は主催が OWLS および早稲田大学であり、同大学の頭仁教授が実行責任者である。

早稲田大学総長小山教授、ICO 委員長の A. Consortini 教授、OWLS 委員長 S. Khanna 教授の挨拶に続いて Key Note Lectures があり、その後一般講演へと移った。

OWLS III がいかに広範囲のテーマを受け持っているかということは最初の Key Note Lectures で強く印象づけられた。例えば、東大名誉教授の渥美博士からレーザー医学の発展について話があったかと思えば、次にニューハンプシャー大の B. N. Rock 教授からのリモートセンシングによる環境モニターについての講演があり、さらにその次はシドニー大学の C. J. R. Sheppard 教授からコンフォーカル顕微鏡の進歩について講演を聴くといった具合である。今回の OWLS III はトピックスをライフサイエンスの中でも特に Optical Methods in Bio-Medical and Environmental Sciences と限っているがそれでもこのように広い範囲となっている。このことの是非はさておき at home な雰囲気の中で、異分野の研究者達が光学という一つの軸を中心に参集しているというのが OWLS III の全体像である。

発表は23か国より集まりその総数は149件であった。議事の進行は下記の17セッションで構成された。

Opening Session

Keynote Lectures

Bio-Optics I, II

3-D Imaging

Imaging and Testing

Environmental Monitoring I, II, III

Optical Methods in Bio-Medical Research

Optical Technology Assessment I, II

Bio-Imaging

New Microscopy

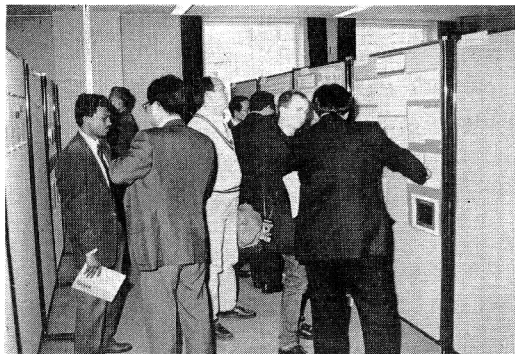
Bio-Optics

Medical Imaging

Testing and Assessment

上記発表のうちポスターセッション以外の口頭発表はすべて井深大記念講堂において行われた。会場を分散せずに一会議場で集中的に議事を進行させることができたので、会議の日程が進むにつれて参加者同士がお互いに打ち解けることができ、国際会議としては大変好ましいスタイルではないかと思う。参加国数の多い国際会議においては、お互い面識のない参加者が多く参集するのでこういうことは大変重要なことである。今回の OWLS III はまだ設立間もない早稲田大学国際会議場という絶好な施設に恵まれ、まことに好運であったといえよう。

参加者総数(展示会のみ参加者数を除く)は188名、その内訳は日本を始めドイツ、中華人民共和国、アメリカ、ロシア、フィンランド、ブラジル、フランス、イタリア、ハンガリー、アルゼンチンを含む23か国の多数である。ICO 本会議もそうであろうが、英語を母国語とする人達(native speaker)の数よりも英語を外



熱心な質疑応答で盛り上がるポスターセッション



レセプションには駐日ハンガリー大使の姿も
(左から3人目)

国語とする人達 (non-native speaker) の数が圧倒的に多かった。会議の公用語はもちろん英語であるから大半の参加者はそれなりにハンディキャップを背負っていることになる。しかし、よくしたもので non-native の英語は non-native 間では比較的良く通じあっており、逆に non-native の英語は native にはあまり通じないという光景が散見された。こうなると有利なのは majority 側であって、ハンディキャップを背負っているのはいったいどちら側なのかわからなくなってしまう。

今回の OWLS III で特長的だったのは、会議期間のうち二日間にわたって共焦点走査顕微鏡とレーザー走査型眼底カメラの展示会が併設開催されたことである。このようなテーマに絞った展示会があまり類を見ないこと、および会議のテーマによく合致していたこと等の理由で展示会は盛況であり、展示会のためだけに会場を訪れる人も少なくなかった。展示会からの収益はすべて会議の赤字補填に使われたので、ここに敬意を表して出展企業名と出展機種を記す。

オリパス光学工業 (レーザー顕微鏡)
 カールツァイス (レーザー走査型眼底カメラ)
 ジャパンフォーカス (レーザー走査型眼底カメラ)
 セイコー電子工業 (走査プローブ顕微鏡)
 ニコンインステック (レーザー顕微鏡)
 バイオリサーチセンター (共焦点アダプター)
 菱光社 (共焦点アタッチメント)
 レーザーテック (レーザー顕微鏡)
 早稲田大学 (レーザー走査型眼底カメラ)

[以上 50 音順]

レセプションは国際会議の楽しみの一つである。この OWLS III でも 10 日には大隈ガーデンハウスで Get Together が、また 12 日にはオープン間もないリーガ・ロイヤルホテル早稲田にてレセプションが催された。参

加者の多くが ICO に参加してきた人達であったせいにか、Get Together ではまだ ICO の興奮が冷めきらぬ様子でカジュアルな雰囲気の中にも ICO のプロシーディングスを持って議論を楽しむといった姿も見られた。

また、レセプションは会場が高級ホテルであったことに加えて駐日ハンガリー大使の予定外の参加もあり、その雰囲気はいやが上にも格調高く盛り上がった。大使の挨拶によれば大使自身が早稲田大学に留学経験を持つことと、ハンガリーからも数名の発表者が OWLS III に参加しているのでレセプションに飛び込み参加をしたということらしい。この挨拶によってハンガリーからの発表者はどれほど勇気づけられたことであろうか。

会議の最終日 (14 日) は筑波サイエンスツアーが企画された。ツアーは行先別に二グループに分けられた。二つのグループは Course A, Course B と名づけられそれぞれ行先は

Course A; 生命研, 電総研, 機械技研

Course B; 筑波大, 計量研, 環境研

である。このサイエンスツアーは OWLS III の参加費とは別に 3,000 円のツアー参加費が必要であったが、どちらのグループも世界的に有名な研究機関を訪問できるよい機会とあって盛況であった。

私にとって OWLS は初参加であり、また実行委員の一人として微力ながら会議の運営にも携わったので、会議がどのように進行するのか非常に興味深いものであった。幸い心配していた Withdraw もほとんどなく、多くの参加者が異分野の研究に敬意を持って接することで良き知人を作り、次回の OWLS IV (米国東海岸, 1996 年 6 月頃を予定) での再会を約束しながら会議は終了できた。

最後に今回の OWLS III での興味深い発表のプロシーディングスは Elsevier Science Publisher からこの 10 月頃に The third volume of the OWLS book series (約 350 頁ハードカバーの単行本) として発刊される予定であることを申し添えておく。

OWLS III のプロシーディングスは 10 月刊行予定で、特別予価は 12,000 円です (送料込み)。限定部数配布ですので 8 月末日までに、郵送またはファックスで下記にお申し込み下さい。

〒169 東京都新宿区大久保 3-4-1
 早稲田大学理工学部 大頭 仁教授
 Fax: (03) 3200-2567

(1994 年 6 月 7 日受理)